

平成19年度 大阪文化賞・大阪芸術賞・大阪文化祭賞

贈呈式&記念コンサート

(平成19年11月3日／大阪国際交流センター)

昭和38年にはじまり、大阪の文化・芸術の振興に多大な貢献をした人に贈られる「大阪文化賞」「大阪芸術賞」「大阪文化祭賞」。その贈呈式と記念コンサートが、昨年・文化の日に開催された。式典プログラム第二部の大阪文化祭賞では、グランプリの豊竹咲大夫さん(浄瑠璃)や日本テレマン協会(室内管弦楽・合唱など)、同賞奨励賞の菊若啓州さん(三味線など)、南部靖佳さん(フルート)や二塚裕美さん(ピアノ)が式に出席し、賞の贈呈が行われた。また、大阪フィルハーモニー交響楽団による記念コンサートも行われ、1000人の来場者が演奏に聴き入った。



蔵屋敷跡と橋の起源をたどる

水都大阪再発見クルーズ

(平成19年11月18日／土佐堀川～堂島川～大川)

水辺の魅力を再発見し、船舶会社などに付加価値のあるクルーズを提案するパイロット事業として、当協会の主催で開催された。第1回目のテーマは「天下の台所～蔵屋敷と橋～」。大阪市立大学教授・谷直樹氏を講師に迎え、一般応募の75人がアクアライナーに乗り、土佐堀川～堂島川を巡った。

参加者は中之島の周囲を巡り江戸時代の地図を見ながら、当時の蔵屋敷の様子や水運の営みの解説を聞いた。一時上陸した広島藩蔵屋敷跡では、遺構発掘時の写真などに興味深く見入る姿も。「川を配して橋と蔵屋敷がつながる。そんな天下の台所を体験できる設備が必要」と谷氏。第2回は1月27日、「川から巡る大阪の建築今昔」をテーマに大阪人間科学大学教授・植松清志氏の解説で開催された。第3回は3月9日の予定。



新進アーティストの登竜門!!

アートストリーム イン サントリーミュージアム

(平成19年11月3日・4日／サントリーミュージアム [天保山])

プロ・アマ問わず、才能ある若いアーティストに発表と業界関係者との出会いの場を提供。公募審査で選ばれたアートマーケットとライブペインティング(約100組)が、イラストやオブジェなど、レベルの高い作品を披露した。また、優れたアーティストに贈られるアートストリームアワードでは、大阪デザイナー専門学校の平野利幸さん(23)が大阪21世紀協会賞を受賞。「こんな大きな賞は初めて。ブースではお客さんの反応がじかに伝わり勉強になった」と笑顔で話した。一方、大阪湾をバックに行われたライブペイントでは、畳3枚ほどのキャンバスに手際良く描かれるようすを、観客が見つめた。来場者は2日間で約1万5千人。潮風を感じながら、さまざまな年代の人が多彩なアートの熱気に触れた。



平野利幸さんと作品「レインボー」

OSAKA 光のルネサンス2007

東横堀川ライトアップ 2007

(平成19年12月10日～25日／東横堀川・高麗橋～平野橋)

水辺に浮かぶ LIGHT BOARD

(平成19年12月21日～24日／京阪淀屋橋港東側護岸)

水の都・大阪の新たな魅力創造を目的に、「OSAKA光のルネサンス2007」と連動して、光による夜間景観づくりが大阪市内2か所で行われた。ひとつは水都大阪2009の舞台にもなる東横堀川で、阪神高速道路の橋げたや防音壁を色とりどりのライトで照らすもの(東横堀川ライティング実行委員会主催)。多数のLEDやハロゲンを光源にして、春(桜)、夏(花火)、秋(いちょう)、冬(雪)のイメージを映し出し、200メートルにわたって幻想的な夜の景観を浮かび上がらせた。また、大阪21世紀協会は水上バスの淀屋橋港東側護岸に光のメッセージボードを設置。光のルネサンス会場と一体感のある演出で、「水都大阪」をPRした。



東横堀川でのライトアップ

淀屋橋港でのメッセージボード